

横綱と大関

「……一年生全体は三十六パーセントでした。……二年生全体は三十五パーセントでした。……三年生全体は九十パーセントでした。」
何の数字かわかりますよね。先週の金曜日、生徒会執行部から報告があった先週のアルミ缶回収への参加率です。以前書いたように、やはり全員参加は難しいようです。

でも、本日注目してほしいのは、三年生の参加率です。十人中、九人が参加しています。一、二年生は十人中、三、四人が参加しています。その差がずいぶんあると思いませんか。

三年生の家庭に、特別に空き缶が多くあるということはないでしょう。家庭の状況には、大した差はないはずです。それにもかかわらず、アルミ缶回収参加率には大きな差が生まれています。それはいったいなぜかを皆さんに考えてほしいのです。

大相撲九月場所が終わりました。新横綱照ノ富士（てるのふじ）が優勝しましたね。彼は、今年の五月場所で大関となり優勝。七月場所では優勝こそできせんでしたが、十四勝一敗の好成績を収め、この九月場所より横綱となりました。

もう一人の横綱白鵬（はくほう）は三十六歳、けがが多く、休場を繰り返していました。そして、昨日、引退の意向を表明しました。年齢やケガが直接の理由でしょうが、引退を決意させたのは、横綱照ノ富士の誕生だと私は思います。相撲界を引っ張って行くべき横綱の新しい後継者が生まれたことが大きいと言えるのではないのでしょうか。

大関の下の関脇や小結が一気に横綱になることはありません。横綱になれるのは、確実な力を付けてきた大関だけです。だれが見ても横綱にふさわしいと言われる大関。次に目指すのは横綱です。

そう考えると、北中の中ではそろそろ二年生が大関として目立ってほしいと願っています。アルミ缶回収においてはただけではなく、本日行われる生徒会執行部選挙をきっかけにして二年生全体が学校生活の全てにおいて、大関の位置にどっかりと座ってほしいのが後期なのです。

三年生の皆さん、優れた横綱は優勝を積み重ねるだけではありません。相撲界全体のことを考えて、後継者を育てること、これも優れた横綱に課せられた使命です。

これまで全力で走ってきたあなたたちのバトンを、これから全力で走ろうと加速しつつある後輩たちに託すことができれば、スピードを落とすことなくバトンはつな갑니다。そのベストタイミングはもう少し先でしょうが、それまで全力で走り続けてくださいね。

二年生の皆さん、いよいよ加速する時ですよ。大関として力の付いているあなたたちの姿を見せる時ですよ。三年生卒業後はあなたたちが横綱にならなければなりません。関脇の一年生が大関を目指していることも刺激にしてくださいね。（九月二十七日 記）